

健全経営をめざすため、鉄道施設を自治体が保有し、運行を鉄道会社が行う「上下分離方式」を導入、昨年4月から新しい運営形態で再出発したのです。

台風18号による甚大な被害、国・県からの支援により復旧へ

経営改善に向け取り組み始めた信楽高原鉄道は、昨年9月の台風18号の豪雨で基礎部分が洗掘されたことによる仙川橋梁の流失、沿線の法面崩壊など甚大な被害を受けました。

特に仙川橋梁については、橋梁の全面付け替えが必要になった場合は、復旧費用が10億円以上になると見込まれるなど、本市の財政計画を揺るがす状況も懸念されました。

しかし、調査が進むにつれ、原型復旧での運行が可能であることが分かり、総事業費も約7億4千万円程度に抑えられるとの見込みが立ちました。

また当初、前例の無い上下分離方式での災害ということから難しいと言われていた国の支援も、関係者のご支援をいただきながら、国へ粘り強く要望を重ね、さらに県のご支援もいただけることになり、本市の実

質負担額が約4千万円〜6千万円程度に抑えられる見込みが立ちました。このことにより、最大の課題であり懸案でもあった市の財政計画への影響が少くないとの目的が立ち、復旧を進めていくこととしました。



▲早期復旧を願い貴生川での署名活動
昨年11月までに35,316名もの署名が集まる

早ければ12月上旬には運行を再開する予定です。

再生をめざし策定された計画書には、ノーマイカーデー割引乗車券など環境乗車券の発売のほか運転などの体験プログラムの開発、西日本旅客鉄道株式会社と提携した旅行商品の開発など様々な利用促進の取り組みが挙げられています。また、2月上旬には、信楽高原鉄道経営改善委員会により会議が開催され、運行再開後の具体的な事業について検討されます。

今後様々な企画が始められますので、皆様のご利用をよろしくお願ひします。



▲快適な駅舎で運行再開をむかえるために(雲井駅)

未来へ引き継いでいくために 積極的な取り組みを

地域にとって信楽高原鉄道は、生活基盤の一部として通勤や通学に利用されるとともに、これからの発展のためになくてはならない地域の鉄道です。

運行再開後は、通勤や旅行の際、信楽高原鉄道を利用するとともに、沿線等に植樹を行うなど、自然環境をいかしての取り組みを行い、地域をあげての利用増強運動を進めていきます。

また、信楽にある豊富な観光資源を活かして、多くの方に訪れていただき、市全体の活性化にも貢献できればと思っています。

今回のことをきっかけに、一人ひとりの問題として真剣に取り組みなければ、存続していかないという思いを強くしました。先人の思いを絶やさず、未来へ引き継いでいけるよう積極的に取り組み、安定した基盤作りにつなげていきたいと思ひます。

皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



甲賀市信楽地域区長 会長
植西 礼之輔 氏

桜を「てんぐ巣病」から守る

●甲賀大原地域市民センター

最近、多くの桜の木が「てんぐ巣病」にかかっているのを存じますか。てんぐ巣病は、カビの一種タフリナ菌によって起こる伝染病で、一つの枝から小枝が竹ぼうきのように多く発生し、鳥の巣のようになる症状です。

大原自治振興会では、桜をてんぐ巣病から守ろうと1月18日、大鳥神社において研修会を開催しました。研修会には35名が参加し、最初に樹木医から桜の特徴と、枝の剪定方法などについて説明を受けました。後半の実技では、病気になる前の枝を切り、切り口には腐朽菌の侵入を防ぐため墨汁を塗りました。

樹木医の西出さんは「きれいな花を咲かすには、日頃から木に愛情を持ち手入れをすることが大切」と話されました。



▲樹木医の説明を熱心に聞く参加者

ぺったんぺったん お餅つき

●水口地域市民センター



▲餅つきを楽しむ親子

寒さ厳しい1月22日、みなくち自治振興会と育児ひろばアプリコットとの共同事業で餅つき大会が開催されました。この日は、未就園児の子育て世代の親子の皆さんがお餅つきを体験され、いきいき百歳体操の参加者に加え近隣の子どもたちもこの様子を見学に来られ、賑やかな催しとなりました。

親御さんと一緒に小さな体で大きな杵を持ってお餅をつく姿や、お餅がつきあがるのを「べったんべったん」と元気な声で見守ってくれる子どもたちの姿に、大人たちも終始、笑みがこぼれていました。

最後は、子どもたちのほっぺのように温かくて柔らかいお餅をみんなでおいしくいただきました。

先例になった「多羅尾防災マップ」

●多羅尾地域市民センター

多羅尾学区自治振興会では1月21日、京都府上宮津市上宮津地区から8名の視察研修の受け入れを行いました。

宮津市の皆さんは、昭和28年の多羅尾大水害の経験をもとに、防災計画・防災マップを作成した多羅尾を研修先として選びました。

研修では、高畑会長が多羅尾の概要や歴史、多羅尾大水害の災害状況を当時の写真をもとに説明した後、防災マップ作成経過や特徴、また実際にマップを利用した防災訓練を行った様子や課題を説明されました。

終始熱心に耳を傾けていた参加者からは積極的な質問が行われ、交流を深められました。今回の研修が、それぞれのまちづくりの反映されることでしょう。



▲防災マップ作成の取り組みを学ぶ上宮津地区の皆さん

矢川橋下仙川河川敷で 好天に恵まれ一斉放水

●甲南第一地域市民センター



▲一年の安心・安全を願い一斉放水を行う消防団員

新春恒例行事の消防出初式が1月12日に開催され、各地域で一斉放水が行われました。

甲南地域では、矢川橋下仙川河川敷を会場に、多くの市民の方々が見守るなか、消防団員、消防署員の皆さんが色とりどりの放水を行い、勇敢な姿を披露しました。

例年は地域の補助消防隊も放水を行っていますが、今年は台風18号の影響で規模を縮小し消防車両10台、消防団員約150名の参加となりました。

地域ぐるみで、今年一年の安心・安全への思いが込められた放水シーンでは、青空に虹が描かれて、平成26年の明るい幕開けを感じさせました。

